

一般会計予算をご家庭の家計簿に例えてみると…?

山陽小野田市の平成 22 年度の一般会計予算を月収 30 万円の「山陽小野田さん」の家庭に例えてみます。生活状況は、どのようなかんじでしょうか？

収入	内訳	22 年度		21 年度		
	給料	138,000 円	46%	138,000 円	46%	【市税など自主財源】
	配偶者のアルバイト	6,000 円	2%	6,000 円	2%	【使用料, 手数料, 財産収入など】
	実家からの援助	120,000 円	40%	111,000 円	37%	【地方交付税, 国・県支出金など】
	借金	33,000 円	11%	39,000 円	13%	【市債】
	貯金取り崩し	3,000 円	1%	6,000 円	2%	【繰入金】
合計	300,000 円		300,000 円			

支出	内訳	22 年度		21 年度		
	食費, 税金	60,000 円	20%	66,000 円	22%	【人件費】
	教育費, 医療費, 介護費用	66,000 円	22%	57,000 円	19%	【扶助費】
	ローンの返済	45,000 円	15%	48,000 円	16%	【公債費】
	光熱水費	33,000 円	11%	33,000 円	11%	【物件費】
	家・車の修繕費	1,000 円	0%	2,000 円	1%	【維持補修費】
	お祝い金, 慶弔など	33,000 円	11%	33,000 円	11%	【補助費, 投資及び出資金】
	子どもへの仕送り	30,000 円	10%	27,000 円	9%	【他会計への繰出金】
	家の増築, 車の購入	18,000 円	6%	21,000 円	7%	【投資的経費】
	その他	14,000 円	5%	13,000 円	4%	
合計	300,000 円		300,000 円			

●「山陽小野田家」の家族構成と生活状況

山陽小野田太郎さんは、奥さんと大学生の一郎さんを含む子ども 3 人の 5 人家族。長引く不況の中、例に漏れず太郎さんの給料は昨年から上がらず、実家からの援助を頼りにし、何とか切り盛りしています。食生活を見直し、食費の減額には成功しましたが、次男の進学を控え、塾代などの教育費はかさむばかり。家の老朽化も著しく、改築等行いたいところですが、先立つものが少なく、今しばらく我慢が必要です。

●「山陽小野田家」の将来の展望

今年は、地方交付税（実家からの援助）の増という追い風があったものの、依然として市税（給料）は増える気配は見えず、苦しい台所事情に変わりはありません。団塊の世代の大量退職も一段落を迎え、人件費（食費）は減少するという明るい兆しは見えますが、子ども手当の新設により扶助費（教育費, 医療費）が大幅に増え、また他会計への繰出金（子どもへの仕送り）も増加傾向にあります。各公共施設の傷みも目立ち始め、近い将来での改修等は避けられそうにもありませんが、先立つ基金（貯金）も少なく、ここ数年は財布のひもをぎゅつと締め、将来を見据えたやりくりをしようと考えています。

